

8/22 五時

# 法案阻止へ大学人声明

## 二度と戦争おこさぬ

滋賀県立大学有志の会

『平和安全法制』(戦争法案)に反対する滋賀県立大学有志の会は21日、『平和安

在、20人の呼びかけ人を含む)の賛同が寄せられたと発表しました。

「声明」は「戦前、滋賀県からは9万5千人以上が出征し、3万2千人以上が戦死」と指摘。▽海軍航空

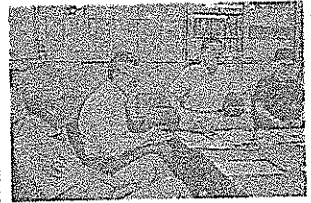
隊の比叡山発射台から特攻機が発射される計画だった▽食糧増産のために内湖干拓事業が開始され、全国から学徒や朝鮮人労働者が動員されたほか、連合軍捕虜700人近くが県内3カ所の収容所に収容され、干拓地で使役された▽信濃では、

## 憲法は生きるベース

下関市立大学有志の会

山口県の下関市立大学経済学部教員6氏は21日、下関市役所で記者会見し、戦争法案の廃

焼き物で地雷や手りゅう弾などの兵器をつくることに小学生まで動員されたーなど県内の出来事を紹介し、「県民を被害者にも加害者にもした戦争を、二度と起こさせてはいけません」と戦争法案の廃案を強く訴えています。



記者会見する呼びかけ人(小川) 下関市役所

案を求める声明を発表しました。声明は「政府与党が改めて国民の声に謙虚に耳を傾けること、十分な理解を得られたとは到底言えない安全保障関連法案を廃案とする」と必要と述べています。

会見で、水谷利晃教授は「われわれが生きてるベースにあるのが憲法。これに違反する法律がつくられたら何を信じればいいのか」と厳しく批判。関野秀明教授は「疑問を呈する『こと』で、(戦争法案の)話し合いはまだ終わっていない、数の力で押し切り続けることはできないという思いを示したい」とのべました。今後は大学関係者に賛同を募りながら教員や学生、市民とともに議論し学が場をもち、他大学との連携も図っていききたいとしています。